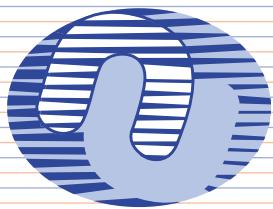


平成13年3月30日
発行 新潟国際情報大学



国際情報

INTERNATIONAL & INFORMATION

新潟国際情報大学広報 第11号

〒950-2292 新潟市みずき野3丁目1番1号 tel 025-239-3111 fax 025-239-3690 E-mail somu@nuiis.ac.jp URL <http://www.nuiis.ac.jp>

卒業おめでとう。
本学での4年間を胸に、羽ばたけ未来へ



第四回卒業式



開学以来4回目となつた、平成12年度卒業式が3月22日(木)午後1時より、新潟市民芸術文化会館で厳粛に華やかに挙行されました。この春、本学から社会に巣立つ卒業生は、情報文化学科116名、情報システム学科176名、合計2つの2名です。

式典は、多数の父兄が列席する中、学位記授与で始まり、卒業生全員の氏名が呼び上げられ、各学科総代が学位記を受け取りました。続いて学長のはなむけの言葉、学生表彰、最後に情報システム学科の宮川洋子さんが卒業生代表として答辞を述べました。

午後6時からは学生主催の卒業記念パーティがイタリア軒で開かれ、なごやかな雰囲気の中で新たな旅立ちを祝しました。



新潟国際情報大学長
武藤 振一

せんが、希望や期待も大きくなりじょ。これから人生嬉しいことや楽しい事も多じでじょが、悲しい事や辛い事もあるでじょ。然し、何事にも怯まず、強い信念を持ち、努力して自らの道を切り開いてまじでのあります。

わが国では第二次世界大戦終了後、間もなく制定された教育基本法に基づいて新しい大学が設置され、約半世紀をくべて、平成3年、大学設置基準の大綱化が行われました。そして、本学は近代的な建学精神を基に、この大綱化も考慮しつつ平成6年に開学され、この度、皆さんを第四回卒業生として送り出すことになった次第であります。

今、わが国では経済政策の失敗が影を落とし、国際的に自信喪失、国民の中に漠然とした不安感や、何とも表現し難い閉塞感が漂っています。然し、私はこれから日本の国民の努力により、この苦境から離脱できるものと信じております。幸い二十一世紀に向けて活躍する皆さんには、本学で習得した成果を糧として役立たせ、力量を發揮し、わが国が躍動的かつ力に溢れた時代を取り戻す事ができるよう期待しております。

二十一世紀は社会主義でも資本主義でもなく、民主的資本主義やポスト資本主義と呼ばれる時代になります。そして知識が資源の中心となり、時間も資源の一つとなることでしょう。従つて、これからの人間、知識ある人間が大切になるとわれてひます。一方、これから組織社会は働く人達に、一生の課題として、体系的な学習を要望する事になるでしょう。

この度の本学の卒業生は、情報文化学科116名、情報システム学科176名、合わせて292名であります。このように大なり小なり様々なことはあります。この度の本学の卒業生は、情報文化学科116名、情報システム学科176名、合わせて292名であります。この度の本学の卒業生は、情報文化学科116名、情報システム学科176名、合わせて292名であります。

皆さんが本学入学の頃、これから四年と思つた長い間の月日も、あつて思つ間に過ぎ去つてしまつたことじょ。学生生活の一日を悔ひなく過ごすことができたじょつか。思い出は回り灯籠の絵のように巡り来り、懐かしさは尽きぬことじょ。

いよいよ学び舎を離れ、同級生は勿論のこと、恩師や後輩とも別れ、実社会へ旅立つことになりました。未知の海への船出には一抹の不安があるかもしま

うことになるでじょ。是非とも、これから皆さんの日常生活の中で、変わり行く知識や技能の修得を心掛けて下さい。大学院教育、施設などの公開講座、放送大学の講座等と言わなくとも、身近なスマーティアを利用し習得する事が可能であります。

本学卒業後も、自らの知識や技術の新鮮化をはかり、皆さんの人生を明るく充実したものとし下さい。

二十世紀が、戦争・紛争の世紀であった一方、物質文明に花が咲き、世界経済も著しく進展しましたが、倫理観も曲がり角に来たように思われます。二十世紀となりましたが、地球上の文明の衝突や、新たな国家的権威主義の台頭により、暫くは紛争の絶えことは無じでじょ。皆さんには国際的な文化や情報技術に対する自らの考え方を持っています。自らの職業に専念すると共に、老子・高齢化社会、社会保障、環境保護など公共的なものに対し、自らの考えを生かす公私思考力を高めて頂きたいのです。

これをグローバル・パラドックスと呼ぶ人もあります。世界的に経済や情報技術が発展する中でこそ、無責任に付和雷同せず、一人一人が確固たる信念を持つて行動する事じが必要ではないでじょか。

これが、自らの思考や行動に責任を持つつ、公共に対する思考を持ちあわせて頂きたいと思つます。新潟でも予想より寒い冬でした。新潟の柳桜をこき混ぜて表現される季節もすぐ目の前にあります。皆さんも、時には春夏秋冬、四季に恵まれた新潟の地での学生生活を懐かしく思い出すことじょ。

人の生は挑戦の連続でもあります。人生勤むるにあり、求めば何を得んや。自ら行動し、努力し、豊かな人生を作り上げて下さい。

四月には皆さんは社会人として、希望に溢れ、満刺として活躍してらじとじょ。

最後に皆さんのご卒業を心からお祝いし、前途に幸多かれど祈り、皆さんを送る言葉と致します。

平成十三年三月二十一日

新潟国際情報大学長 武藤 振一

祝
辞



(学)新潟平成学院 理事長 小澤辰男

のではありません。むしろ戦後最も厳しい経済環境の中での船出になるかも知れません。

就職指導の先生方をはじめ、全教職員の御活躍により、幸いにも本学の就職内定率は、九一%を越え、全国的に見ても大変高い水準にあります。しかしながら、バブル経済の崩壊による、景気の低迷が続き、今後の明るい材料はなかなか見当たらません。しかしこれが現実です。どうか諸君が今日まで学び、培った力を遺憾なく發揮し、己の道に邁進されんことを切に願願するのです。

中国のひとねざに「去る日の多くを苦しめず、只求めよ失う日の少ないことを」というのがあります。

「ああ、今日も一日が終わってしまった」「今年も一年が終わつた」とつて、時の流れの早いことを悲しんだり、嘆いたりしないで、失つ日、つまり後悔する日ができるだけ少ないように努力し、充実した日を送れるよう頑張りなさい」と言う意味です。諸君はきっと、優秀で個性派ぞろいの教授陣と恵まれた教育環境の中で刺激的ななかにも充実した学生生活を送られたことと思います。大学とつぶ村はしきで卒業ですが、さら

振り返りますと、今から約十年前、「環日本海時代」をリードする新潟の地に、「ロシア・中国・韓国」の言葉や文化が学べる大学を作ろう」「益々進む情報化の新しい時代に、「コンピュータネイティブワークをはじめとする情報活用法を学べる大学を作ろう」「そして文系理工系といった枠を外し、トータルで学ぶことで国際化・情報化に対応できる若者を育てよう」。そんな構想のもと、多くの方々の御支援をいただき、平成六年に本学が開学いたしました。

そして四年後の平成九年四月に諸君が入学し、本日卒業の日を迎えた訳であります。

諸君は本学在学中様々な経験を積んだはずです。小学生から高校生までは、どちらかといえど受け身の教育であったと想います。大学では全てが自分自身に責任があります。一人の大人として自らの責任の基に判断をくださなければなりません。つまりいかが教育ではなく、本来の意味での学問が始まった訳です。

そしてこの四年間、諸君はいろいろな事象に対応できる能力を培ってきました。これから諸君が生きていかれる社会は決して甘じるもの



答
辞



情報文化学部 情報システム学科 宮川洋子

ングに挑戦、三年で今までの多くの講義から自分の夢を発見し、四年で「ホームページを用いたRFのサーバー・メールサーバーを構築、友人と共にその結果に喜び憂したことなど、様々なことに挑戦し、勉強してきたことが思い出されます。それと同時に、大学生活の四年間は、すべてが一人ではなく、諸先生方をはじめ、家族・友人に支えられた日々であったと思します。今日まで、ご指導してくださった諸先生方、支えてくれた家族・友人に心より感謝いたします。

これから私達は、それぞれ自分の決めた道を歩むことになります。社会に出ると学生時代には経験しない苦難にぶつかり悩むことがあると思いますが、そんな時に自分が大きく成長させるチャンスだと感じ、逃げることなく立ち向かっていきたいと思します。そして、どんな時も自分を信じ、目標を見失うことなく努力していきたいと思います。

今から四年前、大学とつる新しく環境、初めて親元を離れる不安、友人が近くにいない寂しさなど、様々な戸惑いを胸に抱えると共に、将来に対する大きな期待を持ち、この大学へ第四期生として入学したことを覚えています。

振り返りますと、大学に入学し、パソコンを少し触った程度だった私が、一年でメール・Word・Excelを使えるようになり、二年で言語を用いてプログラミング

卒業式で特別表彰

三四二十一日、卒業式で4年間に顕著な活躍をした学生に特別表彰が行われました。

●理事長賞

情報システム学科 堀 博英

(学友会会長として学友会活動 課外活動の活性化に貢献)

学長賞(総代)

情報文化学科 長谷川杏里

(学友会会長として学友会活動 課外活動の活性化に貢献)

●課外活動賞

情報文化学科 草野 鮎美

(E.S.Sクラブの主将としてリーダーシップを發揮 北信越英会話連盟のドラマコンテスト入賞)

学長賞

情報文化学科 平野加那子

(北信越英会話連盟の役員として課外活動の活性化に貢献)

●国際交流賞

情報文化学科 館川千津

(日韓文化交流基金の日本代表に選抜 コリア研究会主将として韓国との国際交流に貢献)

学長賞

情報文化学科 深川虎次郎

(十二年度紅葉祭でアフリカ映画上映監督講演企画、西アフリカ取材など国際交流に貢献)

地域交流賞

情報システム学科 桜井悟

(新潟市主催産業活性化にかかる学生提言発表会にて発表)

学術賞

情報文化学科 長谷川裕

(第種情報処理技術者試験に合格)

卒業生のことば

情報文化学科卒

齊藤 美佐

我が大学は、留学制度の導入や新カリキュラムの起動など目覚ましい変化を遂げています。第4期生として今思つことは、「大学と共に成長できた4年間だった」とことです。アメリカ研究を中心としたゼミでは、尊敬できる教授と良い友に恵まれました。和氣あいあいとした雰囲気の中で、主張し、議論する楽しさを覚え自信もつきました。

このように大学と共に成長できた4年間は私の宝です。社会に出ても前途ある新潟国際情報大学の出身であることに誇りを持ち続けることじゅうつ。



情報システム学科卒 阿部 真紀子

大学生活もあと残りわずかになり、4年間を振り返りみると、私にとって意味あるものでした。学業や部活、人との出会いで私は成長した仲間や友人の意見や考え方を感じることができ、自分にとってアラバイトになり、また自分の考え方や性格を見つめ直すことができたと思います。4年間の大学生生活での経験、また大学外での経験がこれから社会に出ていく私に役立つことをなっています。

情報文化学科卒

鍋谷 芳

私は大学に入り、やらねばならない事が二つあった。まずは大学での勉強であり、以前から興味を持っていた異文化研究、特に、アメリカ文化を研究できた他、現代誰でもが敏感になつてゐる「情報」を学問として捉える事、自ら考え理解する事を学んだ。

もう一つのやるべき事は、大学へ通つ為のアルバイトだった。始めは大学を辞める事を考えたがやれば出来ると信じた結果、やり遂げることが出来た。この4年間という長い時間はとても短い時間は充実して、これらが私の糧となり大きな自信につながったと思いま



情報システム学科卒 岩村 忠信

「あなたにあえて良かった」。私の大学生としての4年間の思いはこの言ふ集約される。 「あなたに」と言っての特定のある個人のみを意識した言葉ではない。この4年間を通じて出会い、そして関わりを持つことになったすべての人々や出来事に対する心からの想つことである。 大学生といつ時期は多くの人々にとって、それまでの学生生活とは違い、責任ある社会人へと成長するための過渡期にある。そのような人生における大切な時期をこの大学で過ごし、多くの人々に出会い様々な体験ができたことはかけがえの無いものであった。 そのすべてに感謝している。



情報システム学科卒 田巻 純一

これまでの大学生活を振り返つてみると、やはり私は「学生」としての最後になる、この一年間が一番印象に残っています。就職活動は当然ですが、ゼミでの英文の和訳、卒業研究とそれまでの三年間では考えられない、多忙な毎日を送ることになりました。それでもこれまでの学校生活で学んだことや経験したことを見かしまだ教授や就職課の方達の助力もあり、四年間の大成として自分で満足感のいく結果が出せました。これから社会人になるにあたり、学生気分を抜くためのワントラックとしても、この最後の年間はとても有意義だったと思っています。

情報システム学科卒 田村 知子

大学生活を振り返つてみると、あつとう間に4年間でした。4年次は前期に二科目の講義を取つただけで、就職活動と卒業研究に専念しました。私は秋に就職が決まり、早いほうではありませんでしたが、焦らずにマイベースに活動を進めました。この2つを両立させていくことは、意外にも大変なことでしたが、その反面とても充実していたと思います。思い出として残っているのも4年生の時で、夏にゼミの合宿に行つたこと、ゼミの仲間と共に研究を頑張つたことはほんれないと感じます。

情報文化学科卒

星野 淳史

大學4年間、部活をやり、キャブテンをしていたが苦労もたえなかつた。しかし、そんな俺を支えてくれたのは、キャブテンより10cm以上背の高い井越君達3年生だつた。そんな部活を同じ4年の九二男と共に一人三脚で引つぱつたものだ。そして、いつも暖かく見守つてくれたマネージャーのみんなにも感謝だ。

部活以外でも、いつもゆかいな仲間がたくさんこんな俺と遊んでくれたもんだ。半年に一度のテスト以外は本当に楽しい思いをさせてくれた大学にも感謝だ。

情報文化学科卒 渡邊 慎介

四年間という大学生活は、大変短く感じられたが、色々な事を経験することが出来た。海外へ旅行し、外国人と接していない事が、多少の心残りとなつてはいるが、私の行動出来る範囲の中で、多くの人と接する事が出来た事を考えると、有意義であったと思う。それは、先生方の講義や課外活動に参加する事で、私自信の視野の狭さ、考え方の硬さを痛感し、これからは、より多くの人と接する必要があると感じた。この気持ちを忘れず、大学生活にも負けない、有意義な社会人生活を送りたいと思つています。



祝
電

新潟県知事 平山 征夫様

「卒業おめでとうございます。」

皆さんの新しい門出を心からお祝いいたしますとともに、これまでに培われた豊かな知識と創造力をもって、輝かしい未来に向かい、大きく飛躍されることを期待いたします。

新潟市長 長谷川 義明様

新潟国際情報大学の第四回卒業式に当たり、心からお祝いを申し上げます。

本日、めでたく旅立ちの日を迎えた卒業生の皆さんそして、ご家族の皆さま、お卒業おめでとうございます。

また、この四年間、卒業生の皆さんを温かく見守り、指導にあたられた小澤理事長をはじめ、教職員の皆さまの熱意と努力に対し、深く敬意を表します。今、21世紀という新たな世紀を迎え、インターネットや携帯電話に代表される情報通信技術の波は、国や地域の壁をなくし、国際化や高度情報化を推し進め、産業や経済構造においても大きな変革をもたらしています。このなかで、「情報化社会を先導し、国・地域・人間の文化を尊重しつつ国や地域を越えて、人類の福祉向上に貢献する。」ことを開学理念としている新潟国際情報大学で、国際感覚と情報活用能力を培われた皆さんには、新しい時代のリーダーとしてその力を存分に發揮していただけます。

勉学に励み、友と過ごした四年間は、これから皆さんの人生にとって、かけがえのない財産として蓄えられています」と思いました。これからもこの貴重な



財産を生かし、常に向上心をもつて一層の研鑽に励み、それぞれの新しい道で大きく羽ばたかれるることを、心からお待ち申上ります。

終わりに、新潟国際情報大学のますますの発展と

ご参席の皆様のご健勝をご祈念申し上げ、お祝いのメッセージとします。

平成十三年三月十一日

浦昭一・市川照久 共編著
「情報の処理と活用
—情報への感性を養うために—」
(サイエンス社、2001年1月出版 1,750円)

市川照久教授
新潟社会労務士協会主催の講演会で
「一化の現状と将来」を演題に講演

2000年の田、新潟厚生年金会館にて社
会労務士を対象に講演

小澤治子 著
広瀬貞二 共著

「ロシアの対外政策とアジア太平洋
—脱イデオロギーの検証—」
(精良社、2000年12月出版 3,500円)

小澤治子教員の博士学位論文。

情報処理教育委員会情報システム小
委員会の委員として活動

活動期間は一の年の年間～2001年3月。
活動内容は情報システム教育モニタリング

ムの作成、2001年1月の「シンポジウム
など。2001年3月の情報処理教育シンポ
ジウム」で成果を発表します。

稻宮健一 教授

「太平洋地域を覆域とする航行衛星シス
テム」の研究論文がAIAA日本支部發
行の「Space Japan Review」に掲載

AIAA (The American Institute of
Aeronautics and Astronautics) は、宇宙航
空分野では世界で一番大きな学会です。掲載雑
誌はAIAAの通信衛星部門の日本支部が一
月24日に発行。論文は太平洋地域を覆域とす
る航行衛星システムの構想を記述したもので、
日本語と英文の両方で掲載されています。

「近代日本研究」
(2001年3月出版)

福沢諭吉と中国の近代思想家との研究を発表。
清朝時代末期に西洋哲学の導入を進めた厳
復(1853～1921)を取り上げ、日本の
福沢諭吉との比較を試みています。

竹並輝之教授、櫻木公一教授

情報処理学会の「情報システムと社会環境シ
ンポジウム」にて「新潟国際情報大学におけ
る情報システム教育の現状と課題」を発表
開学以来6年が経過した本学学部課程にお
ける情報システム教育の現状と課題について
報告しています。

教員の出版物
教員の活動



情報文化学科

蔡 建国

①平成7年4月～平成13年3月
②われわれは21世紀最初の春を迎えた。私と学生諸君と同様に世紀交替の世代になり、大変有意義と思う。激動した20世紀は人類社会において甚大な難難を超越し、世界融和の時代がやっとなってきた。日中関係もこの百年の間に相互友好と時不遇の歴史があった。この様な世界歴史の中で新時代における私達にどう挑戦すべきであるか、人生の新しい貢をどう開くのかが問われている。私はこれまで積蓄した経験を踏まえ、新しい舞台に日中交流のかけ橋として、相互理解を更なる一層の努力で両国関係の良好未来を微力でも尽したく思う。



情報文化学科

金 己大

①平成8年4月～平成13年3月
②し残した研究に専心したい。世界各地のシンクタンクを訪ねたい。
③学生時代に異文化の生活体験をし、自分の国を再発見する。異文化の友人を持つ。自分のやりたい事、熱中できる事をみつけて、自分の競争力を鍛える。



情報システム学科

稻宮 健一

①平成10年4月～平成13年3月
②4月から宇宙開発事業団の筑波宇宙センターに勤務する予定です。担当の部署は将来の人工衛星のシステムの概念を色々と検討する所です。若い方が主導で研究を進められていると思いますが、私がかつて日本初の静止衛星の軌道投入に携わった今までの経験が彼等の役に立つようになればと思っています。
③易しいことと、難しいことに余のたら、後者を選べ、そして希望を明日に持て。

退職・転勤される先生

平成13年3月で本学を退職される先生が7人いらっしゃいます。定年になられた方や、新しい職場に移られる方などです。皆さん本当にお疲れさまでした。今後の活躍をお祈りしています。今日、皆さんに以下の質問をしてみました。

- ①在職年
- ②今後の予定、したことなど
- ③学生に向かってひとこと



情報システム学科

松崎 奈岐

①平成6年4月～平成13年3月
②今後は巷の哲学者になる。目標は情報革命の現代に必要で正当なる哲学の構築。さらに数学の延長上の音楽は私を離さないだろう。
③本学で最も私に影響を与えたのは学生諸君である。大学は教師と学生の論議の場。諸君、勇気をもて！



情報システム学科

杉野 隆

①平成11年4月～平成13年3月
②学生時代4年間は勉強やスポーツなど、自分の可能性に挑戦できる時間です。そして、卒業する時に、悔いのない大学生活を送つてください。私は東京の国士館大学情報科学センターに移りますが、新潟の2年間は、私の大学教師人生の出発点として忘れられないものになると思います。お世話になりました。



情報文化学科

佐藤 晃

①平成6年4月～平成13年3月
②晴耕雨読?
③つたない授業を律儀に聴いてくれた学生諸君に厚くお礼申します。それから行儀の悪い人達に苦言を少々。授業中に私語する人、手鏡出して顔を直す人、授業の終り頃に平然と入室する人。以上の如きは不快至極であります。



情報システム学科

神 俊作

①平成7年4月～平成13年3月
②本学では主に会計関連科目を6年間教えてきましたがこれからも引き続き、会計と経営をテーマに管理会計（ABC/ABM、BSC、EVA™など）を中心としたコンサルティングをビジネスフレームで行っていく予定です。
③21世紀は企業にも個人にも「価値」が求められます。本学で自分の「価値」の源泉となるものを見つけ、伸ばしていってください。

平成13年度

就職活動レポート

就職体験講座

一人ひとりの学生にきめ細かな就職指導を行つたため、2月10日(土)・11日(日)の2日間、専門家による「就職体験講座」を開催しました。

長引く景気の低迷に就職を取り巻く環境は決して良好とはいえませんが、就職指導委員会では万全の体制で学生の活動をフォローしています。

1日目の講演一部のテーマは、「2001年採用活動の流れから見た就職活動の進め方」。今年度の採用の流れと人事のねらい、企業の求める人材、これから就職活動の進め方について学生にレクチャーしました。また講演2部は「受かる面接を行うために」。面接の種類と人事側の判断基準、効果的な面接の方法を説明。その後、実際に模擬面接を実施し、一人ひとりに効果的な面接の方法をアドバイスしました。



企業説明会



毎年2月に開催する「学内合同企業説明会」。今年は2月14日(水)・15日(木)の2日間にわたりて、本学体育館を会場に、各社の企業説明や質疑応答などを行いました。学生たちは自分の興味ある企業のコロニーに積極的に足を運び、真剣に情報収集に取り組んでいました。外はあいにくの大雪でしたが、2日間で県内最多の約110社の人事担当者が出席。会場は、熱気に包まれていました。

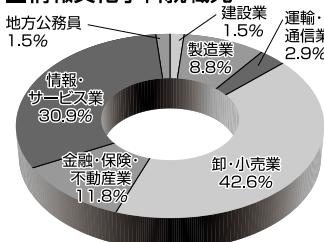
毎年2月に開催する「学内合同企業説明会」。今年は2月14日(水)・15日(木)の2日間にわたりて、本学体育館を会場に、各社の企業説明や質疑応答などを行いました。学生たちは自分の興味ある企業のコロニーに積極的に足を運び、真剣に情報収集に取り組んでいました。外はあいにくの大雪でしたが、2日間で県内最多の約110社の人事担当者が出席。会場は、熱気に包まれていました。

2日目のグループディスカッションでは、採用担当者になつたつもりで求める人材像を設定し、それに基づいて誰を採用するか、活発な議論を交わしました。これにより学生は採用する側の視点を身につけ、自分が採用されるためのポイントを理解しました。

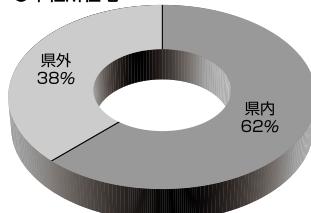
卒業生就職先一覧 (平成12年3月)

アークベルグループ	加茂信用金庫	新潟県信用組合	富士火災海上保険(株)
(株)アイエックスナレッジ	㈱柄長	新潟サンリーン(株)	(株)富士通新潟システムズ
アイビー企画グループ	川口町役場	新潟酒販(株)	(株)プロントコーポレーション
アイフル(株)	関越ソフトウェア(株)	新潟信用金庫	(株)ベンチャーアーバン
(株)アオキインターナショナル	㈱キューピット	新潟ゼロックス(株)	(株)ベンチャーセーフネット
(株)阿賀高原開発	協栄信用組合	新潟綜合警備保障(株)	(株)芳樹園
朝日システム(株)	協和リネンサプライズ(株)ランド事業	新潟日報販売(株)	ホクト産業(株)
(株)アディスミューズ	㈲キラキラコード	新潟日本電ソフツウエア(株)	(社)ほくらの里
五十嵐産業(株)	恒成(株)	㈱新潟日立	ボスシステム(株)
(株)イシダ	㈱幸楽苑	㈱新潟フジカラー	岩信用組合
(株)イマージュ	黒龍江伊特信息技术有限公司	新潟松下システム(株)	(株)マルイ
(株)インテック	㈱コジマ	新潟冷蔵(株)	(株)マルキン
インネット(株)	コニカNC(株)	西川町役場	丸福証券(株)
(株)ウイング	㈱こまつ書店	日産プリンス新潟自動車販売(株)	（有）みかづき
㈱オワロク	㈱コンピュータシティ	日本歯科大学歯学部	三越タクシー(株)
越後中央農業協同組合	済生会新潟第二病院	日本生命保険(株)	宮川口一郎(株)
NSGグループ	㈱サンケイ情報ファシリティ	日本フード(株)	（有）みやけ食品
NDソフトウェア(株)	㈱サンテック	ネッツトヨタ新潟(株)	(株)ムービータイム
(株)エム・アイ・ディジャパン	㈱サンテン・コーポレーション	NOVAグループ	(株)メイソンシステム
扇商事(株)	㈱三宝	㈱ハードオフコーポレーション	(株)メガネのハラダ
(株)大崎コンピュータエンヂニアリング	㈱C&R研究所	㈱ハヤマ	(株)ユニテック
大島農機(株)	㈱JR東日本商事	㈱原信	㈱吉運堂
オギ医理科商事(株)	㈱システムラボ	㈱樋口モータース	㈱吉野屋ディーアンドシー
柏崎信用金庫	㈱芝通	㈱日立中条テクノロジー	㈱読売インフォメーションサービス
柏崎農業協同組合	清水商事(株)	㈱ひらせいホームセンター	(株)ライオン堂
カテナ(株)	ジャスコ(株)	㈱フォーラムエンジニアリング	(株)和田商会
(株)カトウ食材	㈱ジャストミートコーポレーション	福神(株)	
神奈川県警察	白根市農業協同組合		
神奈川美容外科クリニック	信越郵便局		

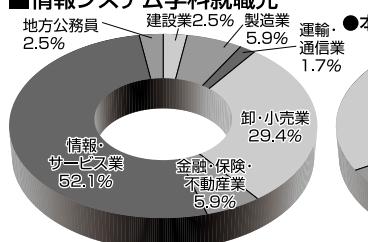
■情報文化学科就職先



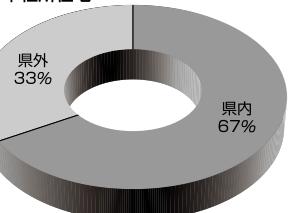
●本社所在地



■情報システム学科就職先



●本社所在地



派遣留学

情報文化学科教授 区建英



情報文化学科では、国際的人材の育成を目指し、現地での言語研修・異文化理解・国際交流を主旨とした「派遣留学制度」を新カリキュラムに組み込みました。その第一弾が2000年度中国への派遣留学です。学生諸君は半年の海外生活に不安を抱きながらも異文化への好奇心または国際交流や海外での実体験への意欲をもつて、三十名が参加しました。受け入れ先の北京師範大学では本学の主旨に沿って、言語と社会文化の授業を含める特別プログラムを用意して頂きました。

これは前例のないケースでしたので、教師と学生は協力し合って模索しました。日本語を使わない社会

文化の授業は、中国語を一年しか学ばなかつた学生にとって最大の難関です。教師は学生が挫折しないよう授業法を工夫し、学生もめげずに頑張りました。大変でしたが、聞き取れるようになつた時の喜びは大きな自信になります。また、中国の学生や教師との友好交流は人生の宝物であるといふ人が多く、帰国時の涙の別れは、国境を越えた人間の連帯の奥深さを物語っています。学生諸君はこの貴重な体験を今後の人生に生かせるよう、心から期待します。



北京大学では本学の主旨に沿つて、言語と社会文化の授業を含める特別プログラムを用意して頂きました。これは前例のないケースでしたので、教師と学生は協力し合って模索しました。日本語を使わない社会文化の授業は、中国語を一年しか学ばなかつた学生にとって最大の難関です。教師は学生が挫折しないよう授業法を工夫し、学生もめげずに頑張りました。大変でしたが、聞き取れるようになつた時の喜びは大きな自信になります。また、中国の学生や教師との友好交流は人生の宝物であるといふ人が多く、帰国時の涙の別れは、国境を越えた人間の連帯の奥深さを物語っています。学生諸君はこの貴重な体験を今後の人生に生かせるよう、心から期待します。

情報文化学科 ハ子理絵

再見「サアイエフ」とこの言葉を何回も言って帰つてしましました。さよならという意味で、また会いましょうという意味も込められています。中国にいる時は軽い挨拶として、言つていましたが、帰国当時の私は、お世話になりました。また会いましょうという意味を充分込めて別れました。日本がなつかしい、早く日本に帰りたいと中國では思つていましたが、今は中国がなつかしいです。毎日が発見の連続で、中国に行き、友好関係の掛け橋になってきたつもりの私は、中国に行く前は、なんことをみなさんと一緒にしました。



バシックめらじょをされたことがあります。だから心配でした。そんな考え方を他所に何ごともなく、異文化を体験、実感してもらいました。中国での生活は私を大きく変えてくれました。日本につなげて得ることのできない物を体験できました。これからはそれをいかに、発揮していくかが大切です。がんばっていきます。樂しかっただけではありませんが、充美した生活でした。食べるものは美味しいし、物価も安い、言つことなし。みなさんも度は中国にいくべきです、なんと薦めてみたりして。日本間は今も大きな問題を抱えていますが、解決が必要です。しかし、日本人の関心は薄いです。観光として目を向けるだけでも、関心が沸くといつこど良い傾向だと思います。「再見」と心から言える関係を築きたいではありませんか。中国に行き、友好関係の掛け橋になってきたつもりの私は、なんことをみなさんと一緒にしました。

午後は2時から4時まで歴史についての授業を受けました。最初の頃は、先生が何を言つているのか理解できませんでしたが、帰る頃には、だいたい理解できるようになりました。中国での生活は、勉強の他に、中国人学生との交流や、有名な観光地を見学したりしました。この留学生生活で、語学はもちろんの事、中国の文化、歴史を実際に体験す

となり、これから私のにとって貴重な財産となりました。この留学で関わつて下さった新潟国際情報大学と北京師範大学の多くの方々にお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。



情報文化学科 林 祐輔

今回、私は新潟国際情報大学として初の「派遣留学制度」によって中国に留学してきました。中国での生活は、朝8時から11時40分まで中国語の授業を受け、

新潟国際情報大学では卒業のために卒業論文が必須となっており、その要旨を卒業論文のベータベースに登録することになります。本年でその数は一一八八件となつたことから、約二〇〇人の卒業生が誕生したことになります。卒業すれば殆どの人は社会人となつてしているので在校生とほぼ同じ数の卒業生が社会で活躍していることになります。社会に出ても大学時代の友人との交流が長く続いたり、仕事で同級生にめぐり会うことがあるなど、大学との関係を時々認識すると思います。同窓会も毎年会員が増加しており、関東支部を含めていくつかの活動が行われています。同窓会の活動が盛んになれば卒業生にとっても、在校生にとっても、大学にとっても非常に大きな力になるはずです。広報委員会でもこの「国際・情報」や大学のインターネットを通じて、大学と卒業生の皆さんとの間をつなげることができるよう努力したいと考えています。

湧 YUUGEN 源

編集後記に代え

情報文化学科では国際的人材の育成を目指し、現地での言語研修・異文化理解・国際交流を主旨とした「派遣留学制度」を

実施して

おり、得るものはとても充

多かつた

と思います。この留学に

参加したことは、大変よい経験

する限りにより、教科書からでは学べない本当の中国に接することができたと思います。この4ヶ月の留学は私にとって、とても短く感じました。しかし、とても充実しており、得るものはとても多くありました。この留学に

参加

したこと

は、大変よい経験

です。

卒業生の皆さんおめでとうございます。

卒業論文が必須となつており、その要旨を卒業論文のベータベースに登録することになります。本年でその数は一一八八件となつたことから、約二〇〇人の卒業生が誕生したことになります。卒業すれば殆どの人は社会

人となつて

いるので在校生とほぼ同じ

数の卒業生が社会で活躍して

いることになります。社会に出ても大学時代の

友人との交流が長く続いたり、仕事で

同級生にめぐり会うことがあるなど、

大学との関係を時々認識する

と思います。同窓会も毎年会員が増加してお

ります。同窓会の活動が盛んになれば卒業生にとっても、在校生

にとっても、大学にとっても非常に大き

な力になるはずです。広報委員会でも

この「国際・情報」や大学のインターネッ

トを通じて、大学と卒業生の皆さんと

の間をつなげることができるよう努

めています。